

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ロジクス大阪交野開発計画	階数	地上4F、地下0F
建設地	大阪府交野市 東部大阪都市計画	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	70 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2021年8月23日
敷地面積	10,195 m ²	作成者	大木建設㈱ 一戸大吾
建築面積	5,521 m ²	確認日	2021年8月23日
延床面積	20,713 m ²	確認者	大木建設㈱ 武智修二



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	大阪府交野市に計画された物流倉庫である。広大な敷地内には緑地を積極的に設け、自然環境の保全や創出に配慮した計画としている。	
その他	0	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・全面的にF☆☆☆☆及び規制対象外の建材を採用し、室内空気質の健全化に配慮する。	・耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。 ・ゆとりのある階高や積載荷重の設定により、高度な対応性・更新性に配慮する。	・敷地内に低、高木をバランス良く植栽し、生物環境の保全と創出に配慮する。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・LED照明の採用により、エネルギー使用量削減に配慮する。	・節水効果のある水栓等を採用し、水資源保護に配慮する。 ・断熱発泡材はODP=0としオゾン層破壊対策をしている。	・燃焼設備を使用せず、大気汚染防止に配慮する。 ・屋外照明や屋外サインを適切に計画し、近隣に光害を与えないよう配慮する。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R3-0050

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)ロジクロス大阪交野開発計画					
	建設地	大阪府交野市 東部大阪都市計画事業 星田北土地区画整理事業					
	用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	4.9	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		